



# スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を



日本自立生活センター自立支援事業所 2017年6月28日発行 第75号

居場所づくり勉強会 第47弾

## 相模原殺傷事件から1年

事件をうんだ「障害者はいない」という考え方（優生思想）について考える



講師：大谷いづみ（立命館大学教授）

日時：8月1日（火）13：30～16：00

場所：日本自立生活センター事務所（油小路）

参加費：無料 担当：渡邊

7月26日で、施設に入所していた障害者19名が殺害された相模原事件から、一年がたちます。

相模原事件は、「障害者はいない」という考えから、障害者が多数殺害された事件でした。この「障害者はいない」という考えは、人の命に順番をつける「優生思想」と強く結びついて、社会の中のいたるところに広がっています。隔離された場所にある入所施設、安楽死や尊厳死をめぐる政治家や経済界の言説、それらは「障害者はいない」という考えのあらわれではないでしょうか。また過去にはナチスドイツで、優生思想に基づき実際に国家ぐるみで障害者が大量に抹殺されたこともあります。

今回、事件から一年たったことを受け、「障害者はいない」という優生思想について考える勉強会を開くことにしました。

尊厳死・安楽死をめぐる言説を研究しつつ、ナチスドイツでの障害者大量殺りくの現場も訪問されたことのある、立命館大学の大谷いづみさんをお招きします。

相模原事件は、決して特殊な事件ではなく、障害者をめぐる社会のあり方や歴史と地続きの事件です。事件をうむ社会の背景について、考える時間をみなさんとともにもうきたいと思います。

日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当：岡山・橋口

TEL: 075-682-7950 E-mail: [jcil-kyoto@jcil.jp](mailto:jcil-kyoto@jcil.jp) URL: <http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>

6月から職員が1名増えました。  
さっそく紹介したいと思います。  
どうぞよろしくお願いします。

## 職員自己紹介

- ① なまえ ② JCIL との関わりはいつから？  
③ きっかけは？ ④ どんな仕事をしていますか？  
⑤ A:大切にしていること B:これからしたいこと

- ① 三宅 亜希子（みやけ あきこ） ② 7年ぐらい前から  
③ 友人に紹介されて介助者として働き始め、妊娠・出産を機に  
事務中心の仕事に代わりました。  
④ 日常の電話・メール対応や、介助者が休まれる場合などの  
介助調整…などなどです。。  
⑤ (A・B)あいさつ？。介助者として働いていた期間が長いので、  
障害者と接してきた経験や介助者視点など、これまでの経験を  
活かした仕事ができたらなと思っています。あとは自分の生活と仕事とのバランスかな。



居場所づくり勉強会 第46弾（5月30日開催）報告

## 「インクルーシブ教育を考える」に参加して

児玉浩一

最初に、「インクルーシブ教育とは何か」という話から。同じ場所で教育を受けること、子供の特別なニーズにきちんとこたえること。それは、障害を持つ子供だけではなく、貧困家庭や外国人など、広い範囲の子供たちに対するものだという話がありました。思っていたより、大きな話になり、驚きながらも話を聞いていました。

また、これまでの障害を持つ子供に対する教育が、どのように行われてきたのか、同じ場所で健常者の子供と学ぶことの必要性や、反対に養護学校や支援学校ならではの個々に合わせた教育内容の話になりました。

そこから、当事者運動がどうあるべきか、人権や差別の問題等、みんなで意見を出し合いながら進みました。色々な意見や考えを聞き、感心しながら、気がつけば、あっという間の二時間でした。もっと時間がほしいと思いました。

私も経験から、普通校で支援がなく孤立したことや、養護学校での支援はあるが、卒業後の社会とのギャップで苦労した話をしました。

現実問題としては、様々な課題がある。子供のニーズに応じた教育支援ができるのか、学校の問題（教員の人数や個別対応が十分なのか？）、家族の負担の問題（送り迎えや校内でヘルパーが使えないこと）、難しい問題があると感じました。

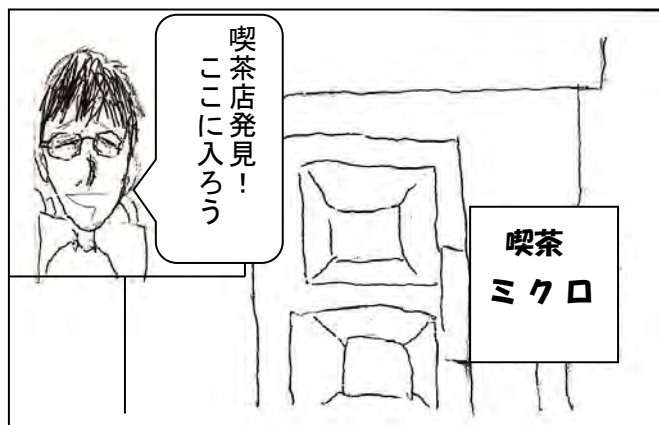
勉強会に参加して、思ったことがあります。私は、小中学校時代、健常者との人間関係に悩んだ経験があります。将来を悲観するような考えを持つほどでした。普通校に、障害を持つ子供を受け入れれば、それで良いということでもない。私には複雑な思いがある、それでも、前向きに考えてみる。

障害者が社会で生きていくための教育が必要で、何かを変えていく必要がある。障害者と健常者が早い段階で出会うことで、お互い理解を深めていくことにつながる。

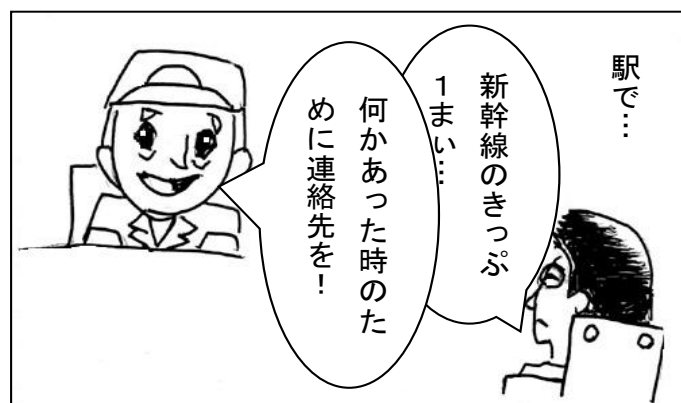
具体的にどうすれば、うまく学校生活が送れるのか、行政や教育機関に要望していけばいいのか、みんなで考えないといけない問題ではないかと思いました。

また、このような勉強会があれば、参加したいと思います。次回も期待します。

「とある地下街にて～名は体をあらわす～」



「何か」ってなんやねん！！



「障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会」の機関紙『はもん』4号(2013年6月12日)と5号(2013年7月18日)に掲載された漫画を、作者の下林慶史さんの許可を得て転載しました。障害者差別解消法は施行されましたが、「合理的配慮」という考えは広まっていません。京都では「実行委員会」の取組によって「京都府障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らしやすい社会づくり条例」ができました。相談窓口もあるので活用していきましょう。

電話：075-414-4609(平日8時30分～17時15分) FAX：075-414-4597(障害者支援課兼用)

Eメール：kyousei-soudan@pref.kyoto.lg.jp





# 七夕 流しそうめん大会

暑いですね！夏ですね☆

流しそうめんて涼みませんか？

誰でも気軽に参加してくださいね♪

★ 日時：7月3日（月）17：00～

★ 場所：松の間

★ 参加費：300円

★ 申し込み：小松、奥 まで

（当日参加も OK）



## こころとからだをすっきり！ヨガタイム

ヨガで自分の身体と向き合ってみませんか？ヨガの目的はきれいなポーズをとることではありません。その日の身体がどんなふうに動くか動かないか、意識を自分に向ける時間です。呼吸が深くなり、肩こり、腰痛、疲労感もやわらぎます。もちろん腰痛予防にもいいですよ！ぜひ参加してみてください♪ 講師は石田久美さんです。



★ヨガ：全身をうごかすヨガ

日 時：7月10日（月）

17：00-18：15（OPEN16：45）

場 所：油小路事務所 2F

持ち物：動きやすい服装・タオル・飲み物

参加費：無料

\* このヨガクラスは、JCIL自立支援事業所の利用者と家族・介助者を対象にしています。